

えいらい

No.3

平成 22 年 1 月発行
発行元／財団法人永頼会 松山市民病院〒790-0067 愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5 TEL / 089-943-1151 FAX / 089-947-0026
発行責任者／院長 山本祐司 編集／松山市民病院広報委員会

- 今号のトピックス
- ◇年頭挨拶
 - ◇臨床の現場から：呼吸器外科
 - ◇きらり WORKS：臨床工学室
 - ◇お知らせ
 - ◇外来診療担当表

年頭挨拶 ～ 意識改革から具体的改善へ～

2009年7月に院長交代しまして半年が経ち、新院長として初めての新年を迎えました。救急医療や地域連携を通じて、関連の医療機関の皆様にはいつもお世話になっております。今年もなにとぞよろしくお願い申し上げます。

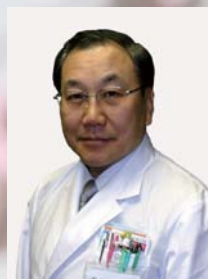
昨年、関係各位の挨拶回りの際に出てくる話題は、地域医療の崩壊と新型インフルエンザでした。今年は元旦早々、当院が二次救急輪番にあたり、808名の救急外来患者に対し職員が大勢出動して診療に当たりました。新型インフル関連の患者が多く、当たり年という言葉はこういうときに使うのでしょうか。この元旦の有様を見ていますと、今年は「医療崩壊」から「医療再生」へかける現場の意欲が伝わってきました。この松山医療圏の中で、『松山市民病院は地域住民のために存在する』と病院の理念で謳っておりますように、地域にとってなくてはならない病院であるということを痛感いたしました。そして職員皆が自分たちのこの病院をこれからどう引き継いでいくのかという意識を持って、これ

からの日々の仕事に取り組んでもらいたいと呼びかけております。

病院は多職種の人が働いており、いわゆるマンパワーが運営の源であります。中でも医師・看護師不足対策が最重要課題であります。幸いこの春、内科に2名、外科に2名増員され、また小児科は引き続き常勤3名体制となるのはうれしい情報です。研修医対策も待遇面を改善し、若い目標とされるような医師に加わってもらい積極的に勧誘活動をすることにしています。看護師確保対策も新たな戦略が必要でしょう。国の医師、看護師増員計画に期待するだけでなく、将来その受け皿としての当病院をどのように充実していくべきかを具体的に考えていかねばなりません。

インフォームド・コンセントにより医療の中身がよりオープンになっていったことで、診療の質、サービスにおいて高いレベルが要求されるようになりました。そのような患者のニーズに対応して、業務の標準化、効率化、システム化

院長 山本 祐司



などの診療側の改革が進んでいくのも必ず至です。不況のあおりで現状は患者数がなかなか伸びない中で、一つ一つの症例に質の高い、サービスの行き届いた納得のいく医療を提供し対応する努力が求められます。その結果診療単価が高くなりますが診療収入アップにつながり収益力が回復すると考えています。各種診療報酬加算や医師事務作業補助など事務職員の業務能力の向上にも期待しています。

また、時代に即応した医療環境・職場環境の整備について検討し、病室・病床・院内設備の具体的な改善を図りつつ公益(財団)法人制度改革への対応準備なども時宜を失わず行う予定です。地域の急性期医療を支える総合病院として、今年は草食系の丑から肉食系の寅へと気持ちを切り替え、積極的に前進していきたいと思っておりますので、関係各位のご支援ご協力をよろしくお願いし、年頭の挨拶とさせていただきます。